（1）　昭和46年11月10日　（毎月1回10日発行）　修学旅行新聞　（昭和41年6月17日第三種郵便物認可）　（定価1カ年500円料共）　第119号

修学旅行新聞

発行所　財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人　白滝末紀
東京都千代田区西神田
2丁目8—7（幅ビル）
電話（262）2426・2932
振替（東京）36337

修学旅行は学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行なう学校教育上極めて重要な行事である。
従って修学旅行を安全かつ有効に実施するための企画及び運営を科学的に調査研究して、常にその改善に努力しつつ教育効果の充実向上を図る事は必要であり教育界に課せられた義務でもある。
（財団法人・全国修学旅行研究協会の趣意書から）

緑の学校　軌道にのる

盛んな施設づくり

大気汚染から　子どもの健康守る

大気汚染や臭気などの公害に悩まされている地域の子どもたちを自然のなかへ送り込もうという文部省の〝緑の学校〟計画は、来年度以降、予算の増額を行ない、該当する地域内の児童生徒の健康を守るのが大きなねらい。これにたいして、ますます深刻化する東京都を始め汚染大都市では施設づくりの強力な対策にのり出し、文部省の計画に即応しようとしている。

東京都ではすでに各区市独自で海浜や山岳地帯に施設をつくり、移動教室として活用しているが、こんどの新大気汚染防止法の制定にそって、さらに増設を図っているほか、従来〝緑の学校〟を利用していた小学校五、六年生のほか四年生も使用できるよう計画している。

まず品川区では静岡県伊豆松崎の台地に約一千平方㍍の土地を購入、来年度から建設を開始し〝緑と水の学園〟を誕生させる。同区ではこの施設を養護学校と併用したいといっている。

文京区はすでに本年度、長野県の野辺山高原に約千七百平方㍍の土地を求めた。来年度から施設をつくるが、この地区は風光もよく児童生徒の健康を守るための好条件を備えていると同区は鼻を高くしている。

都内の下町といわれ、汚染度の高い荒川区は静岡県下田町郊外の爪木岬に約一千平方㍍の土地を購入、来年度から施設づくりを始める。市部では国立市がこのほど長野県菅平に約三万平方㍍の土地を買い入れた。来年度は整地を行なうが、完了と同時に田無市に半分を譲渡する。国立市は四十八年度に第一期工事として二百名ていど収容できる施設をつくり、スキー教室や社会教育関係にも役立てたいという。

大阪市教育委員会では〝緑の学校〟を充実させるため三重県阿山郡伊賀町に「少年自然の家」を含む総合野外施設を作ることになり、本年度中に土地の買収を終え、来年夏には一部使用できるようにしたいという。場所は室生・赤目・青山国定公園内の丘陵地で約百十万平方㍍。ここに三百名収容の「少年自然の家」や「青年の家」キャンプ場を併設するほか、理科学習に即した「自然教材園」も作る計画。総事業費は約十五億円、本年度は二百万円で基礎調査を行ない、来年度から五年計画で建設をすすめる。

同市ではすでに西宮市に「六甲青少年の家」滋賀県高島郡に「琵琶湖青少年の家」を持っているが規模が小さく十分な活用が不可能となっているため、こんどの計画は〝緑の学校〟誕生に即応したものとして大きな期待がかけられている。

東京、大阪以外の公害都市でも子どもの健康を守るために県市をあげて対策にのり出している。

来年、一億円に　文部省

東京都　区市に補助金出す

文部省の〝緑の学校〟（正式には学校保健特別事業）は本年度の予算八千十八万七千円。大気汚染防止法の指定基準に該当する地区の三百八十八校を積算の基礎として計上した。このうち特別健康診断費として一千七百四十六万円をあて、残りの六千二百七十二万七千円を該当地区児童生徒の五泊六日の交通費、宿泊費とするもので、国と都道府県、市町村が三分して負担し、父兄に負担をかけない建前となっている。

新しい大気汚染防止法が本年度から施行されるにあたって、文部省では来年度予算として約一億一千八百万円を概算要求中だが、こんご毎年増額し、年々ふえる該当地区の児童生徒をどしどし〝緑の学校〟へ送り込もうという。

文部省の予算は児童生徒の交通費、宿泊費だけであるため、これを受け入れる施設の建設や借りあげの費用は各都道府県や市町村が負担することになるが、該当する各自治体としても公害対策の一環であるこの〝緑の学校〟を重視している。このための来年度教育予算は大幅に増えるものとみられる。

文部省体育局学校保健課の永野茂信事務官は「子どもたちの健康を守るため予算は毎年ふやしたい。激しくなる工業都市の公害に対し、幸い各地方自治体が真剣に対策を講じているからこの〝緑の学校〟もきっと成功するにちがいない」と期待している。

東京都は西多摩郡の山村と島部を除く都内、都下全域が汚染地区に該当すると文部省から認定され本年度の補助金四千万円配分の内示を受けた。都教委体育部体育課では暫定措置として本年度、移動教室の利用で児童生徒の交通費、宿泊費を支給した区・市へ補助金を交付することになり、このほど文部省へ申請した。

それによると千代田区＝小学校十四、中学校十五、港区＝中学校十一、新宿区＝中学校十五、台東区＝小学校二十九、中学校十一、墨田区＝中学校十二、江東区＝中学校十八、大田区＝小学校六十二、中学校二十七、目黒区＝小学校二十二、中学校二十七、世田谷区＝小学校六十、中学校二十八、渋谷区＝小学校二十二、中学校一、中野区＝小学校二十八、中学校十四、荒川区＝中学校十六、板橋区＝中学校二十。市部では三鷹市＝小学校十二、中学校五、小金井市＝小学校八で合計小学校二三八、中学校二〇七となっている。

なお、来年度からこの〝緑の学校〟の担当は学校教育課へ移管される公算が大きい。

新会長に乾氏就任

あおぞら号近畿地区運営協開く

あおぞら号近畿地区運営協議会は十月二十日午前十時から大阪市天王寺区の近鉄本社内に北野勝会長ほか役員の大阪、兵庫、奈良各府県校長会代表、（財）全国修学旅行研究協会大阪支部長、同大阪事務所長、近鉄本社の部課長も出席して開催①本年度の役員改選②四十八年度の乗車申込みについてを議案として協議した。

新会長には大阪市立南大江小学校長乾英三郎氏が就任したほか新役員を決定、各校に送付する四十八年度の申込み要綱と大阪、奈良、三重の乗車日を審議した。なお特別委員に推せんされた前会長の北野勝氏に記念品が贈られた。

新役員つぎの通り。敬称略。

【会長】乾英三郎（大阪市南大江小学校長）【常任委員】西野滌太郎（泉南市信達小学校長）太田濱治（生駒郡生駒台小学校長）松本一男（神戸市神戸小学校長）西岡権治郎（全修協大阪支部長）米原昇（近鉄営業企画部長）【委員】神田嘉逸（吹田市吹田第一小学校長）垣内利夫（豊中市大池小学校長）吉田米造（大阪市上福島小学校長）井戸泰雄（大阪市すみれ小学校長）坂本学（奈良市飛鳥小学校長）中田勇（北葛城郡王寺小学校長）森川暁之（橿原市畝傍南小学校長）大塚正義（神戸市塩屋小学校長）滌良夫（西宮市浜脇小学校長）村上賢三（西宮市甲東小学校長）桑原守也（近鉄上本町営業局次長）伊藤熏（近鉄営業企画部課長）【委員・会計】赤松善雄（大阪市三軒家西小学校長）【委員・監査】川淵勝男（奈良市椿井小学校長）土田敬直（芦屋市精道小学校長）【特別委員】北野勝（元大阪市堂島小学校長）【事務主幹】日下部文夫（近鉄上本町営業局運輸部営業課長）小西惣二郎（全修協大阪事務所長）

全修協大阪支部からは石川為蔵前支部長に代わって西岡権治郎支部長が常任委員に就任した。

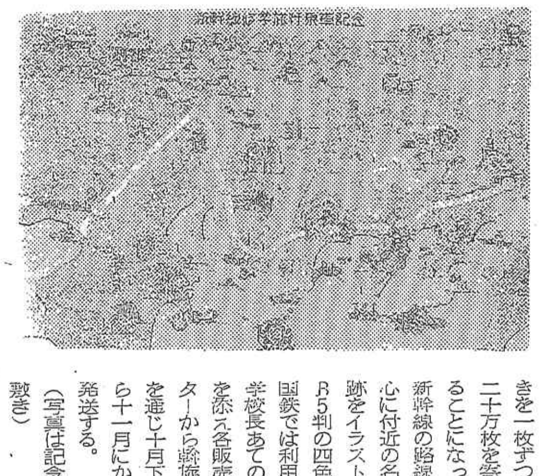
全修協だより

▼本年度の全修協地区会議は既報の通り開催されるが、九州地区は十一月十一日、「北海道・東北」は十一月十七日にそれぞれ変更

新幹線の乗車記念

国鉄からプレゼント

ことしの春から東海道新幹線の修学旅行専用電車が誕生、三月十六日、埼玉県の中学生八百十余名が第一陣として東京駅から出発したが、国鉄では本年、同電車に乗車した全国の校長と中学生全員にたいし記念として乗車記念下敷きを一枚ずつ合計二十万枚を贈呈することになった。新幹線の路線を中心に付近の名勝旧跡をイラストしたB5判の四色刷。国鉄では利用した学校長あての礼状を添え各販売センターから十月下旬から十一月にかけて発送する。



（写真は記念の下敷き）

北海道ブーム続く

年を追って盛んに

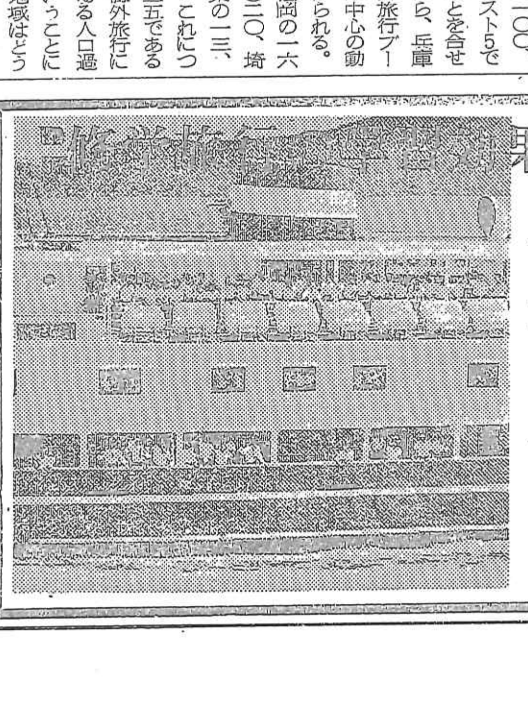
四十五年度に北海道を訪れた観光客の推定数が国鉄北海道総局でまとまった。それによると国鉄、飛行機、カーフェリーを合わせて八百十六万九千二百五十名で、前年にくらべて一六・六％の上昇となった。シーズン別にみると七、八月の最盛期をふくむ上半期が五百五万七千六百名で大半を占めている。利用した運輸機関は国鉄が圧倒的に多く、前年比一〇七・九％。また飛行機は一二四・六％、カーフェリー一三八％といずれも激増しており、本年も昨年度をさらに上回わっていることが予想され、北海道ブームは当分つづきそう。

風紋

朝日新聞の調査によると昭和四十五年度の海外旅行のビザの発行数は、東京の二四二、九八六をトップに、大阪の八〇、四三七、神奈川の三九、八六九、愛知の三四、一〇〇、兵庫の二九、五四五がベスト5で、京都の一八、一二八、福岡の一六、〇九一、静岡の一五、〇二〇、埼玉の一四、〇一〇がベスト10で、これにつぐのが広島の一〇、四三三である。▼北海道と東北六県を合わせても二六、九八三であるから、兵庫一県にも及ばない。海外旅行ブームといっても都市中心の動きであることが推しはかられる。▼昨年中に一万人以上海外旅行に出かけた地域は、いわゆる人口過密のところであったということになる。それならば過疎地域はどうであったろうか▼昭和四十年人口を一〇〇として四十五年は九十五％に人口が激減した鳥取は僅かに九二一の旅券発行数に止まった。人口過疎地域との角度からみると、九七％の秋田は一、六一九、同じく九七％の岩手が一、八〇三、九八％の島根が九七五と共通して口の過疎地域の相関々係は、国内旅行についてもいわれることではなかろうかと思う。かりに、日本列島を空から一目で見ることができるとしたら、ひとと人間が流れさわがしく動いているところと静かに停止しているところと、生と動の面で奇妙な対照を見せているかもしれない▼過密と過疎、これが日本の経済、文化などのあらゆるひずみの姿であるともいえる▼このところ、東京駅あたりの雑踏の中を縫うように動いているのを見かけるが、先生の目に過密都市の姿はどううつるだろうか▼過密地帯から過疎地帯へ、反対に過疎地帯から過密地帯へ、修学旅行は国土と人間の動態について、考えるひとつの好機としてとらえたい。

▼全修協千葉県支部事務所は千葉県教育会館の新築にともない同館文化事業部内へ移転した。千葉市中央四—一三—一〇（電）〇四七二—二七—六一四一（代表）

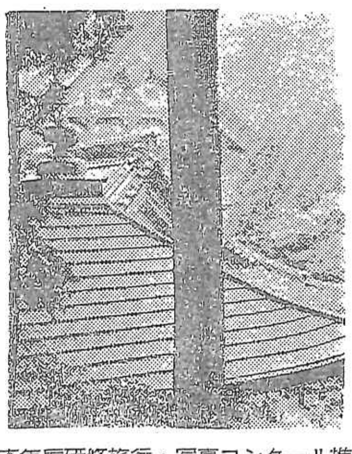
充実した修学旅行
ツーリストをお役立てください
ツーリストでは意義ある行事をさらに充実させるために、事前、または事後学習用として〝修学旅行映画〟シリーズを製作しております。
●修学旅行映画シリーズ
京都の庭園　富士箱根　日光　大和の国なか
大和の塔　火とみどりの国　瀬戸内海
みちのく　大和の道　大和の石　京都の川
（いずれも文部省選定、16ミリカラー、上映時間25〜40分です）
電子計算機がおてつだいする　ひまわり窓口　「登録第20号」
近畿日本ツーリスト


修学旅行の教育効果向上のために
全船冷暖房完備の修学旅行専用船
わかば丸・ふたば丸
旅客定員805名・1,100トン
●一般客との混乗がありません
●船内での学習や研究ができます
●海・船の社会科研究もできます
楽しい有意義な瀬戸内海の修学旅行を！
関西汽船
●お問合せは…大阪（441）9161
ほか関西汽船各地営業所・各旅行斡旋案内所

研修旅行文芸作品

朝の散策記 ㊤

山田秀子



本年度研修旅行・写真コンクール推せん作品（白黒）木曽・立山・能登コース総持寺の印象川原裕氏（福岡）

待ちに待った、それこそ二十年来宿望の北海道旅行。手続きのすべてを終わった時に、第一に浮んで来たのは、何より好きな朝のそぞろ歩きのことであった。

早速、スケジュール表を開いて見入る。

九泊十日だから迎えられる朝は九回ある。車中泊の翌朝は残念ながら除くとして、散歩のできる朝は五回めぐり来ることになる。万歳。五回も散策できるのだ。

すなわち、一、函館・湯の川の朝、二、洞爺の朝、三、網走の朝、四、層雲峡の朝、そして五、定山渓の朝。

わたしの心は躍った。まだ見ぬ一つ一つの朝の清々しからんことを。また、新鮮ならんことを切望して。

そして、この願いは、まさにかなえられたのであった。ある朝はうすら曇ってしんみりと、ある朝は底抜けに明るく、ゆったりとした朝も含み、台風の余波をうけて強い風と雲間の光に自然の厳しさをさえ感じさせて、最後の朝は、この上もない陽の輝きを名残りに訪れ去って、いったのである。二百名を越す大団体のあわただしさの中で、この朝のひとときだけは完全にひとりをとり戻し、心にしみるもの（旅情であろうか）をしみじみとかみしめたものである。

以下、一つ一つ、ていねいに思い出したい。

八月四日　函館・湯の川の朝（曇天）

宿は明月閣。窓から見た異国風の屋根、東風の冷たさが快かった。すぐ前のみやげ物店までの小散歩。素ぼくなおばさんの物腰にがま口も自然に開き、友だちへのアイヌのこけしを求める。Yさんは体に合わせて大きなこけし。期待にもえて飲み、なめた牛乳、アイスクリームは、やや物足りない味であった。残念。

八月五日　洞爺の朝（晴天）

宿は女中さんのサービスを誇るひふみ旅館。遠出はしなかったが、屋上の清々しさは忘れることができない。斜めうしろに視野に入る洞爺湖。水のあおさとさざ波に映える木立の緑が限りなく美しい。前面の家並みに、故郷遠くさいはての地に来た実感があふれる。湖上遊覧が楽しみになる朝景色であった。

八月七日　網走湖の朝（晴天のち曇天）

デラックスな網走湖荘の目覚め。快適。ロビーのゆたけさに心はふくらみ、何よりも宿をすっぽり包んでなお余りある木々の緑と、湖の広さが楽しかった。五時から行動開始。すばらしい浴場で、庄助さんをしのぶ朝湯。ロビーへ出てカーテンをそっとあける。視界にとび込む網走湖。胸痛いまでの旅情…。入口のドアの開くのももどかしく、水ぎわへ。藻を少々と、黄土色系の石を数個、うちの金魚へいただく。自然歩道の朝つゆを踏んで、泊った部屋の前まで行く。

まだ、ひっそりと静か。戻り道ふと仰いだ三階の部屋から、名も知らぬ顔も 知らぬ男性、手を振る。我にかえるまでの一瞬、思わず手を振り笑顔でこたえていた。

「しまった。しかし旅なのだ。旅の恥は何とやら。いいじゃありませんか、神様よ」

愉快になって いきおい 門を出る。鉄道と並んでほとんど直線に走るこの道は、きっと、国道だろう。朝まだき、通る人とてなく、人家もない。繁る木立ちと湖の水あるのみ。鼻をふくらませて胸いっぱい大気を吸う。二十分歩いてすれ違った車は三、四台、仕入れか配達の車らしい。そろそろ朝食の時間、きょうの旅のすばらしからんことを祈ってくびすを返す。（つづく）

＝北海道研修旅行参加者、山口県小野田市＝

はまなすの花

＝北海道旅情＝

岩崎登美

東北の車窓にうつる月見草旅の心
もなごみて見ゆる
函館の山より眺む海に浮く津軽の
町もかすみのなかに
ソーランソーランとガイドの声も
かろやかに窓べに夏の日差しを

（北海道Aコース参加者、北九州市門司区）

残酷な鳥葬風景

―わが外遊記⑧―

高田治郎

先進国と後進国

アフリカ大陸から一転してインドのボンベーに着いたのは十二月四日の午後十一時半ごろである。途中アデンとカラチを中継したが空港でお茶を飲んだだけで、町に出られなかったので書くこともない。

ボンベーに着いたのは夜中の十二時近くで、ジェトロの奈良井氏が出迎えてくれた。飛行場で車に乗ろうとしたら、子どもたちが集って手を出してお金をせがむのである。この十二時すぎの夜中にどうしたのかと思った。

十一年前のこと、ニュー・デリーで、ホテルの前に熊まわしが来ていた。私たちはちょうど外出するために玄関に出ていた時で、ちょっと立ちどまって見て、すぐ車に乗ろうとしたら、熊まわしのインド人が車のそばによって来て金を出せという。つまり、立ち止まって見たから金を出せというらしい。インドは十一年前も今も大してかわらないように思った。

ボンベーは一泊しかしなかったし、あまり時間もなかったので、市内を一巡するだけであった。ここで報告したいのは鳥葬と世界の残酷物語に出たという「格子の中にいる遊女」たちとキタナイ街の様子である。

木の上に乗る死体

案内者の奈良井氏の話によると鳥葬というのは、死体を高い木の上に乗せておいて、鳥が死体の肉を食いちらして残った骨が下に落ちる。それを遺族がひろうのだそうで、完全に鳥に食われるのが後生がよいのだと説明された。ところが間もなくその鳥葬に出会ったのである。それは昔の日本の田舎の葬式の行列と同じで、ちがっているのは死体が棺の中に入れてないことである。

全身を白い衣で包んだまま戸板のようなものの上に乗せて何人かでかついでいた。身体の胸のところが赤く血に染っていたのが非常に印象的であった。その後に二十何人かの行列が続いていた。車も相当走っているのに、まことにのんびりしたものである。

今回の外国旅行で四回ほど葬式に出会ったが、ボンベーの鳥葬だけは一生忘れられないのではないかと思う。

つぎに格子の中で一日二十四時間営業を続ける遊女のすがたである。どうもきたなくて遊ぶ気持ちになれるものではないが、何十軒あるかわからないほどならんでいた。ちょっと金額は忘れたが、私たちの想像も出来ないような安いお金であった。「世界の残酷物語」として紹介されるだけのことはあるかと思った。

美醜甚だしい街なか

外国人の集まるホテルや公園などは実に立派であるが、一般庶民の住むところは実にきたない。糞便が道路の両わきにたれ流しになっており、貧民くつも物すごくきたない。

ボンベーで珍らしいのは市営の洗たく場である。何百人もの人が集って洗濯している様子は他では見られないボンベー独特のものかと思った。

ボンベーの市営洗濯場（筆者うつす）

十二月五日の夕方、セイロンの首都コロンボに着いた。ここで三泊したので多少の休養もとれたしゆっくりした。インド半島の南端五十粁の海上にうかぶ緑濃く陽光と色彩に富む美しい島で、仏教徒からは「インドの眉間に輝く真珠」と呼ばれている島国であって実に美しいところである。

ジェトロのコロンボ所長の小山氏と日本に長い間留学した方で日本人を妻にもつダイヤシン氏の二人が実によく案内してくれたので外国での不便さは全くなかった。

翌六日はセイロン第一の観光地カンデーに行った。六百米の高原にある美しい湖に面した山間の静かなところで、ここはカンデー王朝の旧都で王宮や寺院などがある。とくにダラダ・マリガワ寺院は仏陀の歯を祭ったところとして有名である。靴はもちろん靴下まで脱いで裸足でなければ参詣できない。裸足でお寺を参詣したところはもう一ヵ所あった。それはコロンボから七粁離れたケラニヤというところで、仏陀が使ったと伝えられる寝椅子を祭ってある寺院である。しかし私たちは寝椅子は拝観出来なかった。（つづく）

＝全修協理事・北海道支部長＝

若い心を大きく広げる

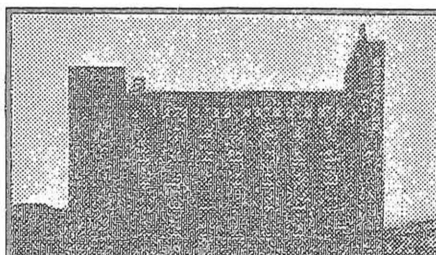
豪華観光船　ふじ・にほん丸（旅客定員 1,800名 3,000トン）

見ているだけで、心が大きく広がる海――
修学旅行は海になさいませんか。
日本最大の豪華客船　ふじ・にほん丸が、
生涯忘れえぬ修学旅行へご案内いたします。
純白の船体に若い心をのせて……。

- ●科学技術の粋をあつめた最新鋭船。
- ●一流ホテルのような豪華な設備、完全エアコン。
- ●皆さまのスケジュールにあわせて就航。
- ●学習講義用ＴＶシステムも完備。
- ●一般乗客との混乗はありません。

●お問い合わせは●

Ⓐ 大島運輸株式会社 東京支店
東京都中央区日本橋通1の6
浅野ビル ☎(03)273－8911



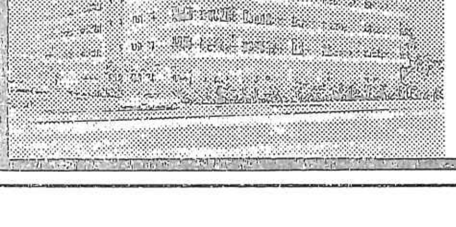
東京コマ旅行会館は
第８回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。

東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、８階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。

ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木１丁目７番地
TEL (03)585－1046(代表)

東京 コマ旅行会館

静かな湖畔の宿
47年３月１日オープン
《予約受付中》



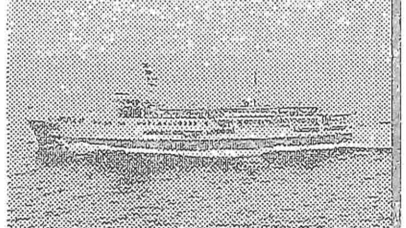
〈収容〉800名様
〈浴場〉1時に150名
〈設備〉全館冷暖房
〈防災〉各設備完備
〈食堂〉550名席

びわ湖旅行会館

大津市におの浜３丁目
ビワコ・エースレーン内
びわ湖旅行会館開設準備室
電話 大津 0775－24－2521(代表)

校外学習に生きた教材の宝庫
国立公園
伊豆大島

■海洋学の習得■島の理科・地理・歴史の学習■保健体育にも



〈かとれあ丸〉

《かとれあ丸》は
・2,300トンの豪華大型船
・船内設備は超一流
・船酔いがしない

東海汽船
東京都中央区銀座西８－10
TEL 03 (573) 0241